



豊かな自然・
かがやく文化
大好き阿賀町

～「阿賀町15年教育」で未来の創り手を育む～

阿賀町学習指導センターだより

令和3年7月26日（月）№10

授業づくり研修より vol. ～三川小 頓所 千佳 先生

2年(特別支援学級) 算数 単元「長さ(1)」。本時のねらいは、一人一人の目標が設定されていました。「テープの長さを比べる方法を考え、任意単位で比べることができることに気づく。」
「テープを動かしたり、ヒントシートを使ったりしながら、テープの長さを比べる方法が分かる。」
「テープを動かしたり、道具を使ったりしなくても、テープの長さを比べる方法が分かる。」です。

導入。頓所先生は、「じゃんけん」+「色違いのテープ」で子どもたちを引き付けます。10回勝負。先生に「パーで勝ったら、〇〇色のテープ」と条件を設定されました。長さを比べるという比較思考へつながっていきましたね。頓所先生から「テープの長さをどうやって比べる？」と問われました。子どもたちから「色で数える」「色を数で表す」とアイデアが出されます。

頓所先生は、一人一人が出したアイデアを、その子自身に説明させていきます。とても大切です。もちろん、話すことが苦手な子には支援が必要でしょう。しかし、自分の考えをきちんと語ることは、主体性を大事にすることでもあり、責任を持たせることでもあります。このような頓所先生の指導の構えはとても素晴らしいと思いました。

課題提示場面。頓所先生は、課題提示と同時に、一人一人の実態を踏まえて課題解決の条件を出します。子どもたちに適度な負荷をかけることで、解決する耐性(粘り強く学習に取り組む)、非認知スキル(社会情動スキル)が鍛えられますね。

途中、解決に行き詰まった子どもへ、ほかの子が自力解決できることを確認して、個別に指導を行いました。一人一人の学習状況をよく見とっていらっしゃいました。子どもたちの自立と社会参加のため、必要以上に支援をせず、見守ることも大切な構えです。



ひとなつこい笑顔であいさつをしてくれた子どもたち。心がほっとしました。普段より子どもたちを受容し、温かく接していらっしゃるのだと感じました。だからこそ、子どもたちのこのような様子が見られたのだと思います。

また、先生の落ち着いた物腰、語り口調がとても印象的でした。子どもたちの実態を踏まえ、熟考を重ねた授業だと思いました。

(※写真は、1時間目の国語の様子から。)

学校訪問より vol. 8 ~ 三川小 櫻庭 秀之 先生 ~

3年算数。単元「たし算とひき算～3けたの筆算のしかたを考えよう～」。本時は14時間中10時間目です。本時のねらいは「計算を簡単にするには、区切りのいい数にすればよいことに気づき、どのような工夫が必要かを考えることができる。」です。また、本時で目指す子どもの姿「計算を簡単にするための工夫を考え、そのよさに気付くことができる。」です。



導入。今日のめあて「工夫して計算しよう」、「できるといいな」の確認が、櫻庭先生と子どもたちの間でなされます。三川小学校が提案するルーブリックです。これで、子どもたちは、今日の学習で目指す姿を自覚します。

続いて、櫻庭先生から『 $298+120$ 』を計算しよう」と投げかけます。子どもたちは素早く筆算で計算し、答えを出します。これまで筆算の学習を積み重ねてきた成果がすぐに現れていました。

さて、筆算で計算することに習熟している子どもたち。櫻庭先生は「どんな工夫をする？」と働きかけ、「暗算」で計算することへつないでいきます。ここで、子どもたちから「暗算？」「暗算の方がおそいかも…」とつぶやきが聞こえてきました。そこで、櫻庭先生は「どんな数だったら暗算できる？」と思考を促します。子どもたちの状況を見取りながら「計算しにくいのは？」「どんな数にしたら」「区切りがいいのは？」と形成的FBをしていきます。子どもの気づきを促す手立てですね。「298を+2をして300にする」ことを確認し、「 $300+120$ 」としました。子どもたちから「数があっていない。」と声が上がります。ここで、298に足した2を120から引くことを確認できました。



展開。ここまでを学習して、櫻庭先生から「計算を簡単にするにはどのような工夫をすればよいか」と課題が示されました。子どもたちは「 $500-198$ 」に挑戦します。自分の考えを書く時間が設けられました。問題と対峙する時間は主体的、協働的な学習を展開する上でとても大切な時間です。

子どもたちは問題に集中します。書き終えた子から、手慣れた様子で、タブレット端末で撮影、提出をします。

提出された(ロイロ上の)ノートを1つ1つ確認していきます。子どもたちの出してきた答え。「302」と「298」。答えが分かれませんでした。子どもたちに最高の場面が訪れます。櫻庭先生は「298と答えが出た人はなぜそうなったのかな？(答えが)302の人と何が違う？」。しかし、残り時間がわずかになったことから、次の時間にさらに追及することになりました。

櫻庭先生は、三川小学校が提案する「ルーブリック」を子どもたちに分かりやすい表現で作成されました。子どもたちが、容易に学習を自己評価することができます。

発行 阿賀町学習指導センター

住所 〒959-4392 東蒲原郡阿賀町鹿瀬 8931 番地1

電話 0254-92-3337 FAX 0254-92-2116

E-mail kohiyama_hyk4042@town.aga.lg.jp kyoiku3@town.aga.ed.jp



町の鳥 ウグイス